平成２９年度
修了生による教育評価報告書

平成 30 年 10 月
香川大学大学院地域マネジメント研究科

目次

総括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第１章　修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要
1．調査の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2．調査実施期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
3．調査対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
4．調査の内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
5．集計方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

第２章　調査結果について
1．回答者の属性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

2．分析
1．在学当時の状況について
(1) 在学中の出席状況について（問 1） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
(2) 在学中勉強時間（問 2） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
(3) 仕事で役立ったと思う科目（問 3） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目（問 4） ・・・・・・・・・10
(5) 土曜日の開講について（問 5） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
(6) プロジェクト研究について（問 6） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について（問 7､8） ・・・・12
(8) 学部学生の就職について（問 9） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
(9) 自習室、教室の環境について（問 10､11） ・・・・・・・・・・・・・・14
2．修了後の効果について
(1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事で必要な能力（問 12） ・・15
(2) 学んだことに満足しているかについて（問 13） ・・・・・・・・・・・・20
(3) 愛着について（問 14） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
3．現在の状況について
(1) 自己研修について（問 16） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
(2) 地域活動について（問 17） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて（問 18, 19） ・・・23
(4) 後期（１０月）入学の必要性について（問 20） ・・・・・・・・・・・24

3．自由記述のデータ
プロジェクト研究について（問 6） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
カリキュラム等について（問 15） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
改善点要望等について（Ｖ） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

総　括

- 平成 29 年度修了生 26 人中 25 人（96%）からアンケートへの回答があった。

- 平成 29 年度修了の 13 期生の属性の特徴は以下の通りである。
  ・30 歳代の年齢層が多くなっている。
  ・自宅は 7 割程度が高松市、勤務地も約 8 割が高松市内である。
  ・就業状況は、正規雇用が約 8 割以上である。
  ・入学時の職種は、公務員(国・地方自治体)と販売・サービス系が多く
  次に金融・商社系と続いている。
  ・入学当時の役職は「無し」と回答した者が最も多かった。

- 在学中の出席状況は、すべての授業に出席した場合を 100%として平均 86.7%である。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では 84.1%であった。

- 週当たりの勉強時間は、11.48 時間である。
  前回アンケート調査では、10.25 時間であり、約 1.23 時間増加した。

- 仕事で役立ったと思う科目は、「人的資源管理論」と回答した人が最も多い。
  仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目は、「統計分析」と回答した人が多い。
  前回のアンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では仕事で役立ったが「統計分析」「人的資源管理論」で、仕事とは関係ないが役だった、が「統計分析」「四国経済事情」との回答数が多かった。

- 土曜の開講は、必要（72.0%）、ある程度必要（24.0%）で合計 96%となり、土曜日開講の必要性は高い傾向にある。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、必要（71.4%）、ある程度必要（28.6%）で合計 100%となっており 4%減少した。

- プロジェクト研究については、「満足している」(58.3%)、「ある程度満足している」(33.3%)で合計が 91.6%となっている。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、「満足している」(20.0%)、「ある程度満足している」（42.9%）で合計が 62.9%となっており前回より 28.7%、肯定的な回答が増えている。

- 社会人組織（所属組織）からの支援を受けた人は 45.5%、社会人組織以外（奨学金など）からの支援を受けた人は 28.6%となっている。

- 学部からの進学生による、就職についての対応についての満足度は、「満足している」(60.0%)、「ある程度満足している」(20.0%)、「どちらともいえない」が（20.0%）である。

- 環境（自習室、教室）については、教室は「満足している」(60.0%)、「ある程度満足している」(36.0%）で合計が 96.0%となり、多くが満足と回答している。
  自習室は「満足している」(60.0%)、「ある程度満足している」(32.0%）で合計が 92.0%となっている。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、教室は「満足している」(18.8%)、「ある程度満足している」(56.3%）で合計 75.1%であった。
  自習室は「満足している」(48.5%)、「ある程度満足している」(30.3%）で合計 78.8%であった。

- 大学院教育で身についた能力は、「論理的に考え、物事を進める力」「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」「幅広い知識や教養」と回答した人が多かった。

- 研究科で学んだことについての満足度は、「満足している」(60.0%)、「ある程度満足している」(40.0%）合計で 100%であった。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、「満足している」(45.2%)、「ある程度満足している」(51.6%）と、合計 96.6%が満足と回答している。

- 研究科に愛着があるかどうかは、「非常にある」(56.0%)、「ある程度ある」(44.0%）で「愛着がある」という回答が 100%であった。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、「非常にある」(43.3%)、「ある程度ある」(50.0%）の合計 93.3%であった。

- 講演会、シンポジウム等への参加しようと思うかについては、「思う」が (96.0%) であった。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、「思う」が (86.4%) であった。

- 講演会、シンポジウムの形式については、「一般公開」がよいとする意見が (92.0%)「在学生・修了生のみ対象」(8.0%)となっている。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では「一般公開」(79.3%)、「在学生・修了生のみ対象」(20.7%)であった。

- 後期入学が必要という回答は、「非常に必要」(12.0%)、「ある程度必要」(36.0%) 合計 48.0%であり、「どちらともいえない」(32.0%)、「あまり必要でない」(12.0%)「全く必要でない」(8.0%)合計 52.0%となっている。
  前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、「非常に必要」(3.2%)、「ある程度必要」(38.7%)で合計 41.9%、「どちらともいえない」(32.3%)、「あまり必要でない」(19.4%)、「全く必要ない」(6.5%)で合計 58.2%となっている。

第１章　修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要

１．調査の目的

この度、本研究科の平成 29 年度修了生を対象に大学教育評価に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を「修了生による大学院教育評価報告書」に取りまとめた。

この調査の目的は、本研究科の提供する専門職大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本研究科に対する要望等を把握することを目的として実施することである。

２．調査実施日

平成 30 年 3 月 24 日（土）修了式後

３．調査対象

（１）調査対象と調査方法

調査対象は、平成 29 年度地域マネジメント研究科の修了生全員である。修了式、学位授与式の終了後、修了生にアンケートに記入してもらい、その場で回収した。

（２）回収数及び回収率

アンケート調査の回収数は、平成 29 年度修了生 26 人中 25 人から回答があった

４．調査の内容

アンケート調査の質問項目は、Ⅰ.在学当時の状況について、Ⅱ.在学当時の支援関係について、Ⅲ.修了後の効果について、Ⅳ.現在の状況について、Ⅴ.香川大学、本研究科へのご要望、Ⅵ.あなた自身について、の 6 項目についてである。詳しい内容は第３章の資料編を参照願いたい。

５．集計方法

集計方法は、各問ごとに単純集計を行い、合計数とその割合（小数点第１位未満を四捨五入）を％で表示した。なお、回答にあたって、未記入（無回答）と答えたものは、集計数に含めないこととした。そのため、問ごとに集計総数が異なっている。

なお、各問ごとの集計結果は、第３章資料編に綴っているので、参照願いたい。

第２章　調査結果について

１．回答者の属性

問 21～問 28 は、回答者（修了生）の入学時の年齢、住所、所在地及び勤務地、就業状況、職種等を問うたものである。集計結果については、前述したとおり無回答を除いているため、集計総数が問ごとに異なっているのでご注意願いたい。

（１）入学時の年齢（問 21）

入学時の年齢については、30 歳代（39.1%）が最も高く、以下、20 代（26.1%）、40 代（21.7%）、50 代（8.7%）と続いている（図 1 を参照）。

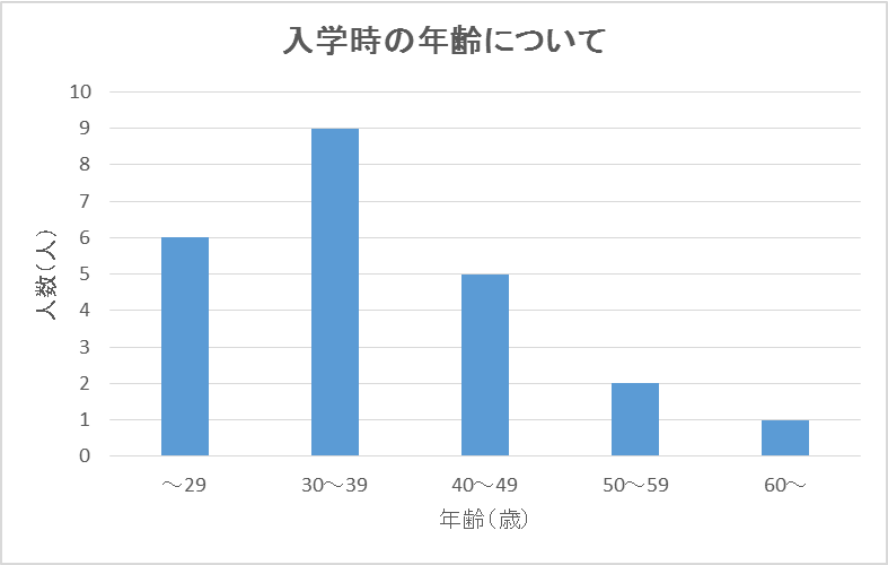

図 1　入学時の年齢

（２）入学時の自宅所在地及び勤務地（問 22）

研究科入学時における自宅所在地は、高松市 72.7%（16 人）で、高松市以外の香川県 22.5%（5 人）、県外は福岡県福岡市が 4.5%（1 人）である。

勤務地は、高松市 82.4%（14 人）、高松市以外の香川県勤務地は 17.7%（3 人）となっている。

（３）入学時の就業状況、職種、役職について（問 23, 24, 25）

問 23 は本研究科の修了生が入学時に正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 83.3%（20 人）、非正規雇用が 12.5%（3 人）、働いていないは 4.2%（1 人）である。

職種は、販売・サービス関係と公務員（国・地方自治体）が各 27.3%（6 人）で一番多く、商社・金融関係 22.7%（5 人）、食品・化学関係 9.1%（2 人）、教育関係、情報通信関係、保健・衛生・医療関係、その他がそれぞれ 4.5%（1 人）となっている。（図 2 を参照）。

役職は、無しが 22.7%（5 人）が一番多く、課長 9.1%（2 人）、アルバイト、係長、課長代理、課長補佐、部長、副部長、所長、代表取締役、主査、主事、主任、技師、調査役、チームマネージャー、主席がそれぞれ 4.5%（1 人）となっている。

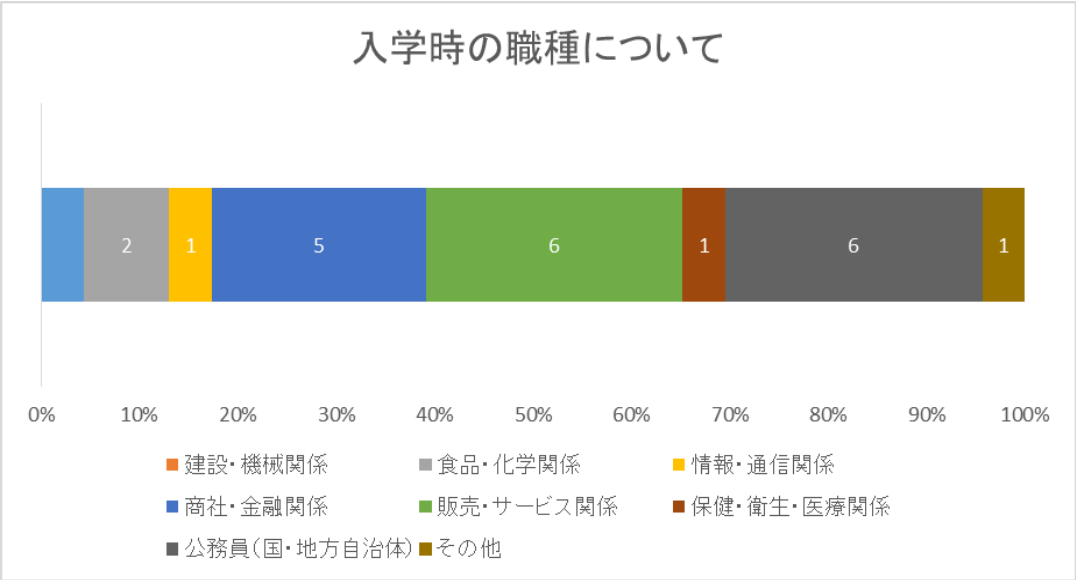

図 2．入学時の職種について

（４）現在の就業状況、職種について（問 26, 27, 28）

問 26 は本研究科の修了生が現在就業状況を問うたものである。正規雇用が 87.5%（21 人）、非正規雇用が 4.2%（1 人）、働いていないが 8.3%（2 人）である。

職種は、商社・金融関係と公務員(国・地方自治体)が各 28.6%（6 人）で最も多く、続いて、販売・サービス関係 19.0%（4 人）、食品・化学関係が 9.5%（2 人）、情報・通信関係、保健・衛生・医療関係、教育関係、その他各 4.8%(1 人)となっている(図 3 を参照)。

役職は、課長 10.0%（2 人）が一番多かった。アルバイト、一般職員、主査、副主事、主事、主任、係長、課長代理、課長補佐、部長、代表取締役、技師、副調査役、調査役、グループリーダー、チームマネージャー、主席が各 5.3%（1 人）となっている。

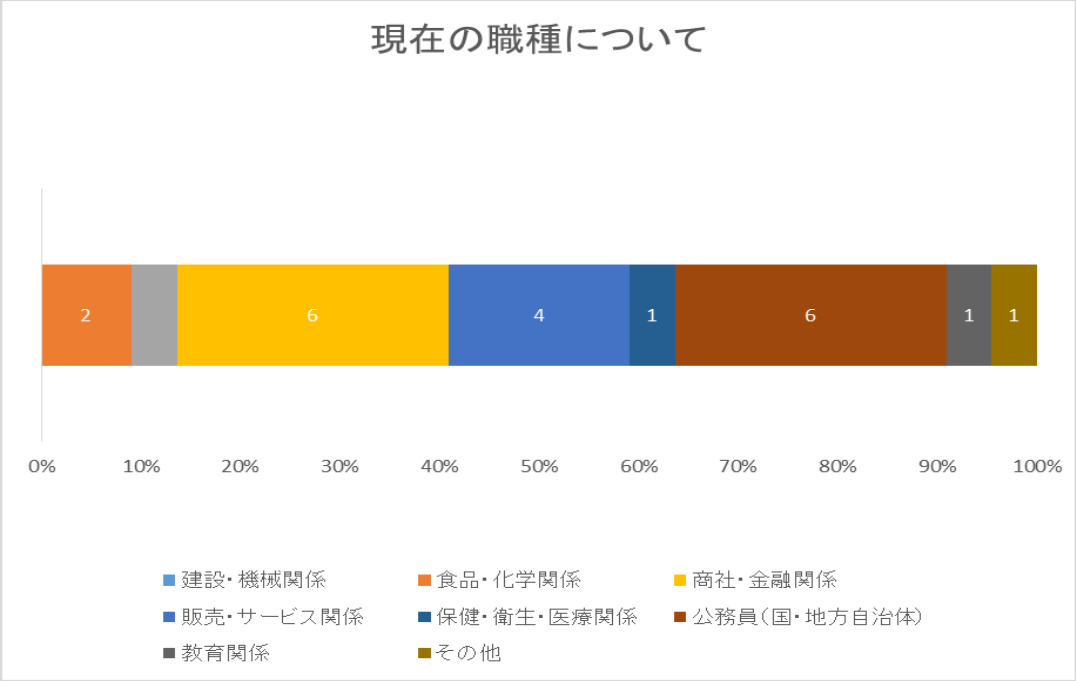

図 3．現在の職種について

２．分析

１．在学当時の状況について

（１）在学中の出席状況について（問 1）

在学中にどれだけ出席できたかを見てみる。全ての授業に出席した場合を 100%とし回答してもらったところ、平均が 86.7%となった（図 4 を参照）。

前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、84.1%であった。

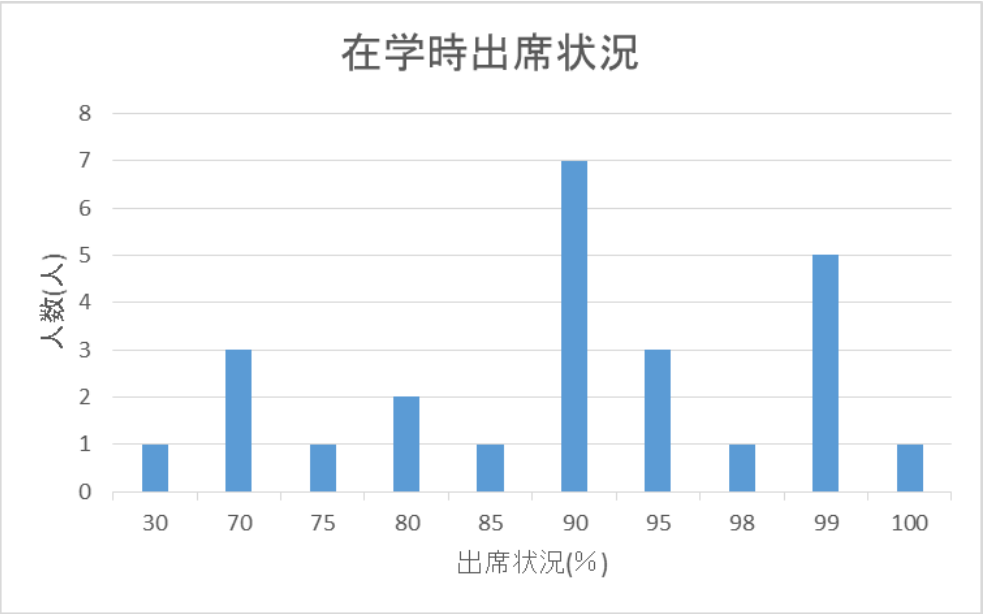

図 4．在学中出席状況

（２）在学中勉強時間（問 2）

在学中に週に勉強時間をどの程度、またどのように確保したのかを見てみると、平均、11.5 時間となる（図 5 を参照）。

前回アンケート調査(平成 28 年度修了生対象)では、10.2 時間であった。

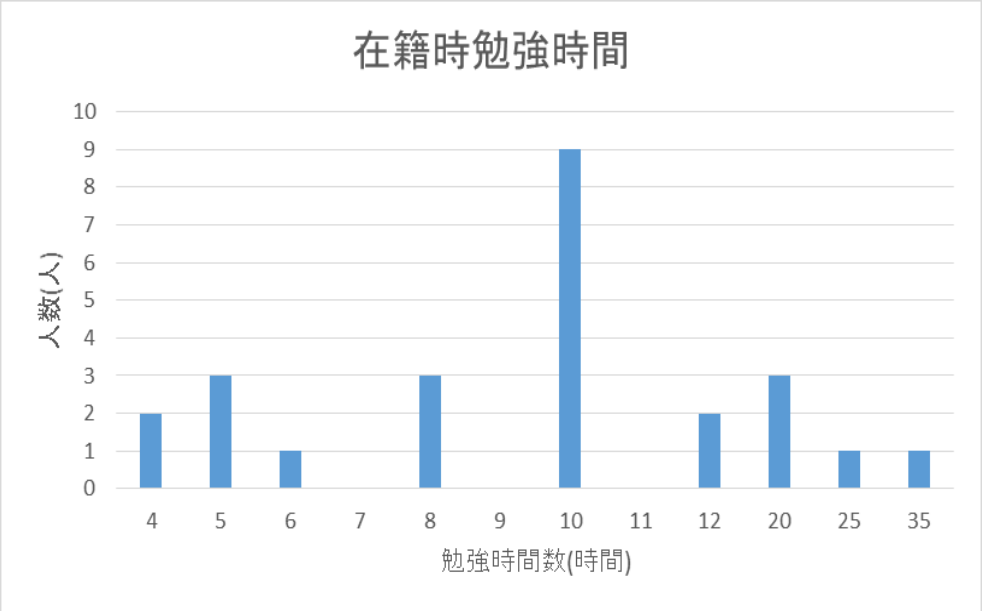

図 5．在学中勉強時間

授業時間以外の勉強時間をどのように確保しましたか（問 2 記述）
・朝 3 時 30 分起床 ・朝 3 時頃起きて、あるいは土日に。 ・早朝に確保 ・夜・土日 ・週末など ・休日を減らす ・休日の勉強。平日深夜に。 ・休日 ・夜寝る時間を短縮 ・夜寝る時間を削って・ねる時間を削った。 ・自習室に通った ・自習室へ極力行くようにした ・地マネ室を利用することでモチベーションを上げていた。 ・昼間の時間を利用していました。 ・仕事の空き時間や休日、平日の夜を使った。 ・仕事や家庭のすき間時間を活用 ・仕事をしていないため十分に確保できた。 ・仕事の量を調整して確保しました。

（３）仕事で役立ったと思う科目（問 3）

仕事に役立ったと思う科目を見ると以下のようになる。最大 3 つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表 1．仕事の上で役立ったと思う科目

統計分析	4	8.0%
組織行動論	4	8.0%
マーケティング戦略	4	8.0%
経営管理論	4	8.0%
経営リスクマネジメント	3	6.0%
四国経済事情	3	6.0%
自治体財政政策	2	4.0%
費用便益分析	2	4.0%
ファイナンスマネジメント	2	4.0%
国際経営	2	4.0%
事業構想論	2	4.0%
定性的研究方法論	2	4.0%

地域公共政策	1	2.0%
地域マネジメント論	1	2.0%
地域活性化と観光創造	1	2.0%
マーケティングリサーチ	1	2.0%
意思決定分析	1	2.0%
プロジェクト研究	1	2.0%
実践型地域活性化演習	1	2.0%
マネジメント戦略(応用)	1	2.0%
マーケティングマネジメント	1	2.0%
アカウンティング	1	2.0%

（４）仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目（問 4）

仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目を見ると以下のようになる。この問も最大３つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表 2．仕事とは関係なく役立ったと思う科目

アカウンティング	4	9.3%
費用便益分析	3	7.0%
マーケティング戦略	3	7.0%
イノベーションマネジメント	3	7.0%
社会起業家論	3	7.0%
プロジェクト研究	2	4.7%
地域マネジメント論	2	4.7%
事業構想論	2	4.7%
クリエイティビティと地域活性化	2	4.7%
定性的研究方法論	2	4.7%

地域観光マネジメント	1	2.3%
マーケティング	1	2.3%
ゲーム理論	1	2.3%
経済分析	1	2.3%
人的資源管理論	1	2.3%
地域活性化と資本市場＠の役割	1	2.3%
デザイン・マネジメント	1	2.3%

（５）土曜日の開講について（問 5）

社会人学生が多いこともあり、現在土曜日も開講しているが、それについての回答が以下のようになる（図 6 を参照）。「必要」（72.0%）「ある程度必要」（24.0%）で合計 96.0%となった。

前回アンケート調査（平成 28 年度修了生対象）では、「必要」（71.4%）「ある程度必要」（28.6%）合計 100%であった。

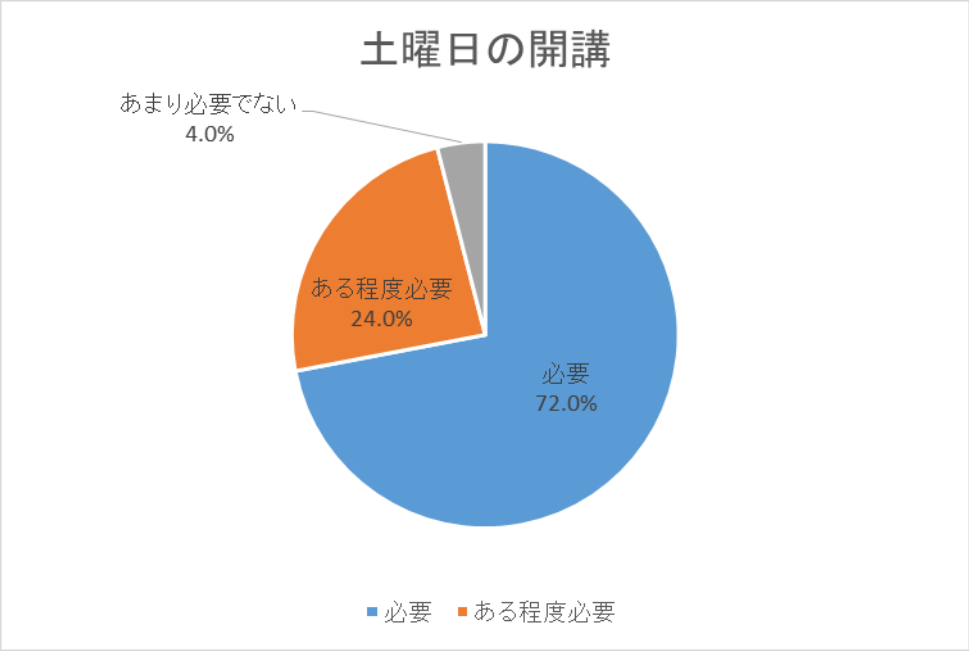

図 6. 土曜日の開講について

（６）プロジェクト研究について（問 6）

本研究科のカリキュラムの集大成となるプロジェクト研究について見てみると、「満足している」（58.3%）、「ある程度満足している」（33.3%）で合計 91.6%となった（図 7 を参照）。

前回アンケート調査（平成 28 年度修了生対象）では、「満足している」（20.0%）「ある程度満足している」（42.9%）で合計 62.9%であった。

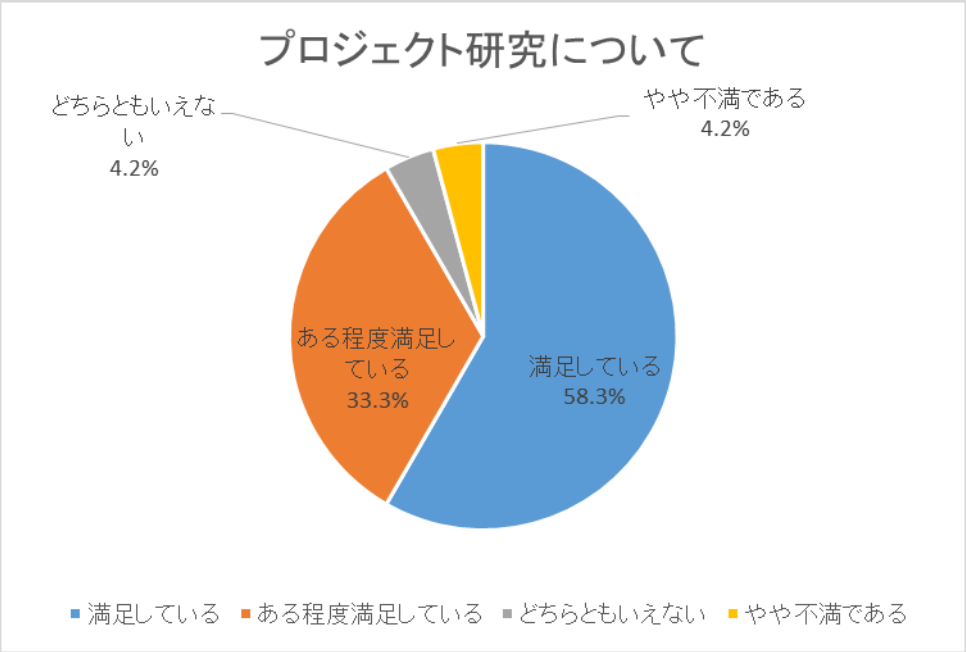

図 7. プロジェクト研究について

（７）社会人組織、社会人組織以外からの支援について（問 7､8）

社会人学生に、社会人組織（所属組織）からの支援ならびに社会人組織以外（奨学金など）からの支援について見てみると、以下のような状況である（図 8 を参照）。

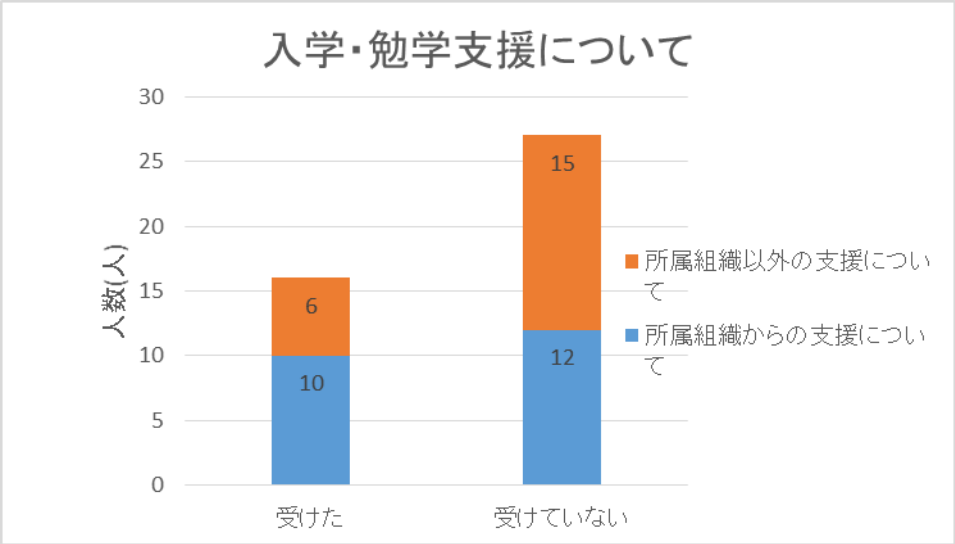

図 8．入学・勉学支援について

具体的な内容

所属組織からの支援内容（問 7 記述）
・金銭的な支援 ・入学金・授業料 ・学費の補助 8 割 ・補助金等 ・全学補助 ・授業料の補助 ・授業料の助成 ・費用・業務 ・出向という形で業務負担が軽減した。 ・残業・出張を極力減らしてもらった。

所属組織以外からの支援内容（問 8 記述）
・専門実践教育訓練給付金 ・補助金 ・振興協会 ・かがわ産業支援財団

（８）学部学生の就職について（問 9）

学部からの進学生に、就職についての対応についての満足度を見てみることにする（図 9 を参照）。

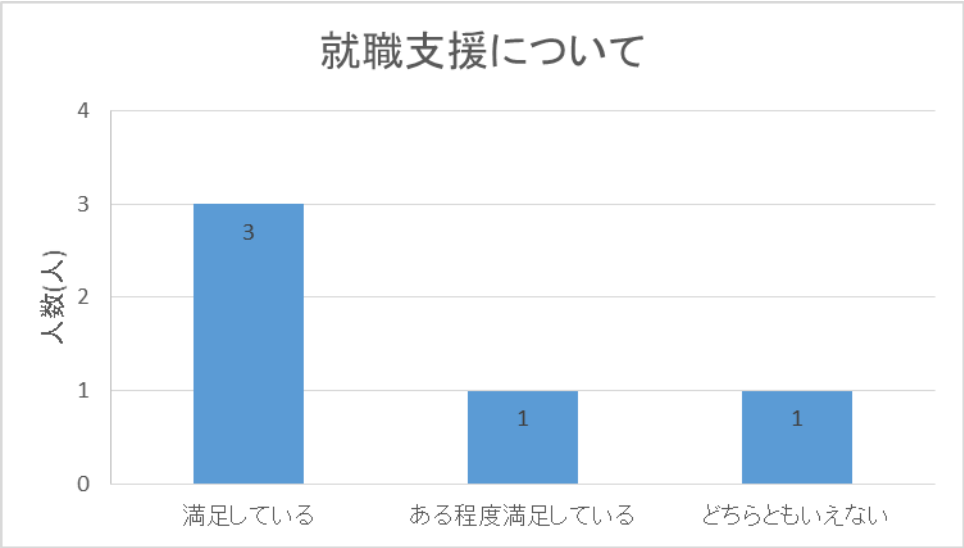

図 9．就職支援について

（９）自習室、教室の環境について（問 10､11）

自習室と教室の環境についての満足度を見てみることにすると、教室は「満足している」（60.0%）、「ある程度満足している」（36.0%）で合計 96.0%が満足と回答している。自習室は「満足している」（60.0%）、「ある程度満足している」（32.0%）で合計 92.0%が満足と回答している（図 10 を参照）。

前回アンケート調査（平成 28 年度修了生対象）では、教室は合計 75.1%が満足、自習室は合計 78.8%が満足と回答しているので、自習室、教室の満足度は前年に比べ両項目とも上昇している。

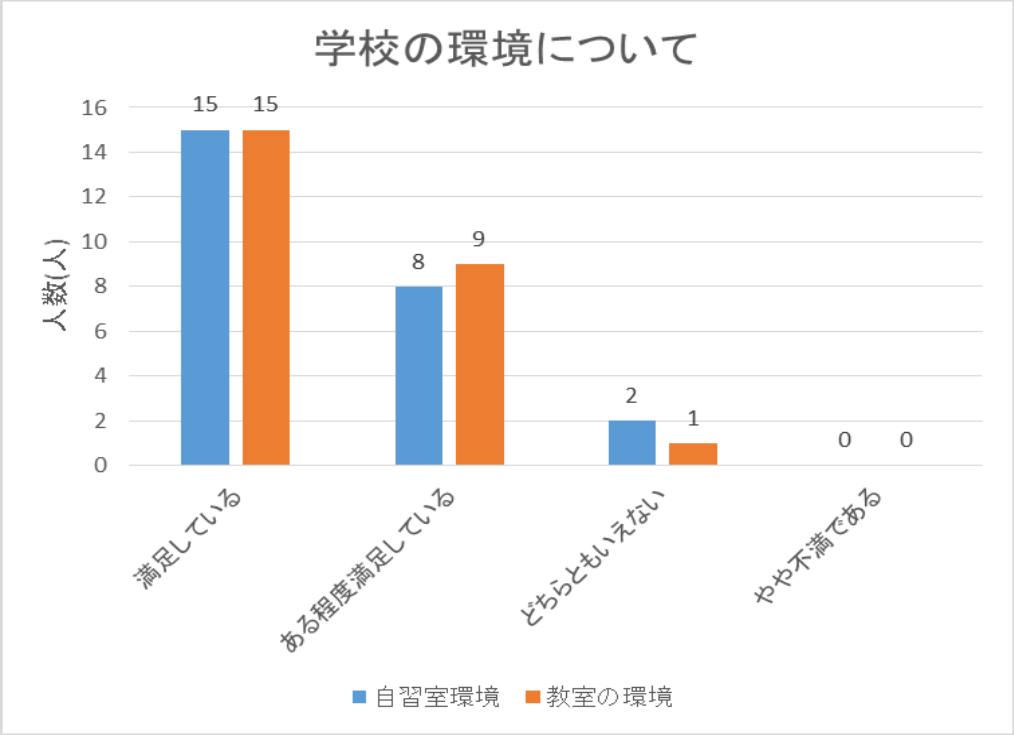

図 10. 学校の環境について

２．修了後の効果について

（１）大学院教育で身についた能力と現在の仕事で必要な能力（問 12）

ここでは、19 の能力について、大学院教育でどの程度身についたか、また現在の仕事でどの程度必要とされているかを、「身についた」「ある程度身についた」「どちらともいえない」「あまり身についていない」「身についていない」、「必要」「ある程度必要」「どちらともいえない」「あまり必要ない」「必要ない」の 5 段階で回答してもらった。

なお、大学院教育の項目の「身についた」から「身についていない」までを、“5、4、3、2、1”の 5 段階に（図 11-1 を参照）、現在の仕事の項目の「必要」から「必要ない」までを、“5、4、3、2、1”の 5 段階で表示した（図 11-2 を参照）。

また、必要とする

※図は次頁

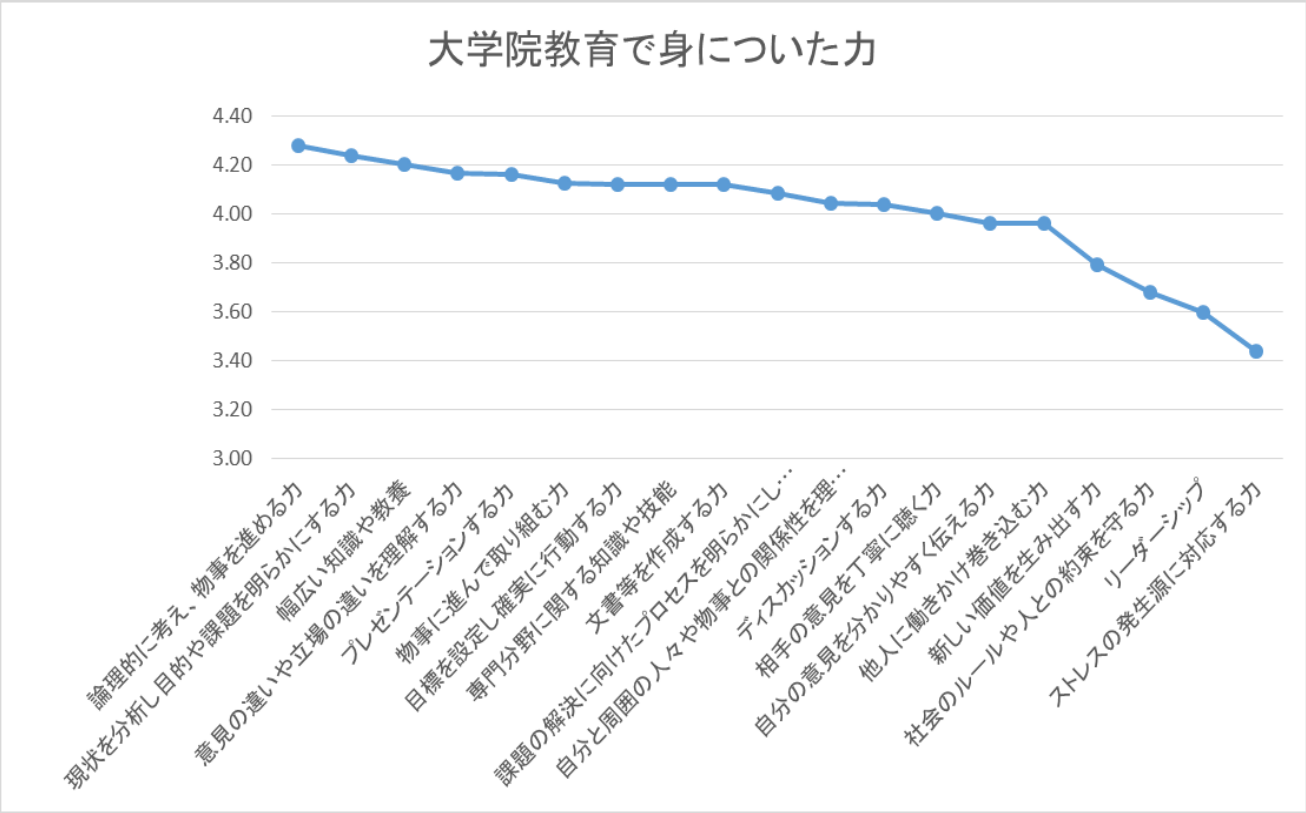

図 11-1. 大学院教育で身についた能力

表 3　大学院教育で身に付いた能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.28	0.46
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.24	0.52
⑬	幅広い知識や教養	4.20	0.58
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.17	0.56
⑱	プレゼンテーションする力	4.16	0.85
①	物事に進んで取り組む力	4.13	0.54
③	目標を設定し確実に行動する力	4.12	0.60
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.12	0.60
⑯	文書等を作成する力	4.12	0.67
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.08	0.58
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.04	0.69
⑰	ディスカッションする力	4.04	0.68
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.00	0.41
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	3.96	0.73
②	他人に働きかけ巻き込む力	3.96	0.79
⑥	新しい価値を生み出す力	3.79	0.59
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	3.68	0.75
⑲	リーダーシップ	3.60	0.71
⑫	ストレスの発生源に対応する力	3.44	0.87

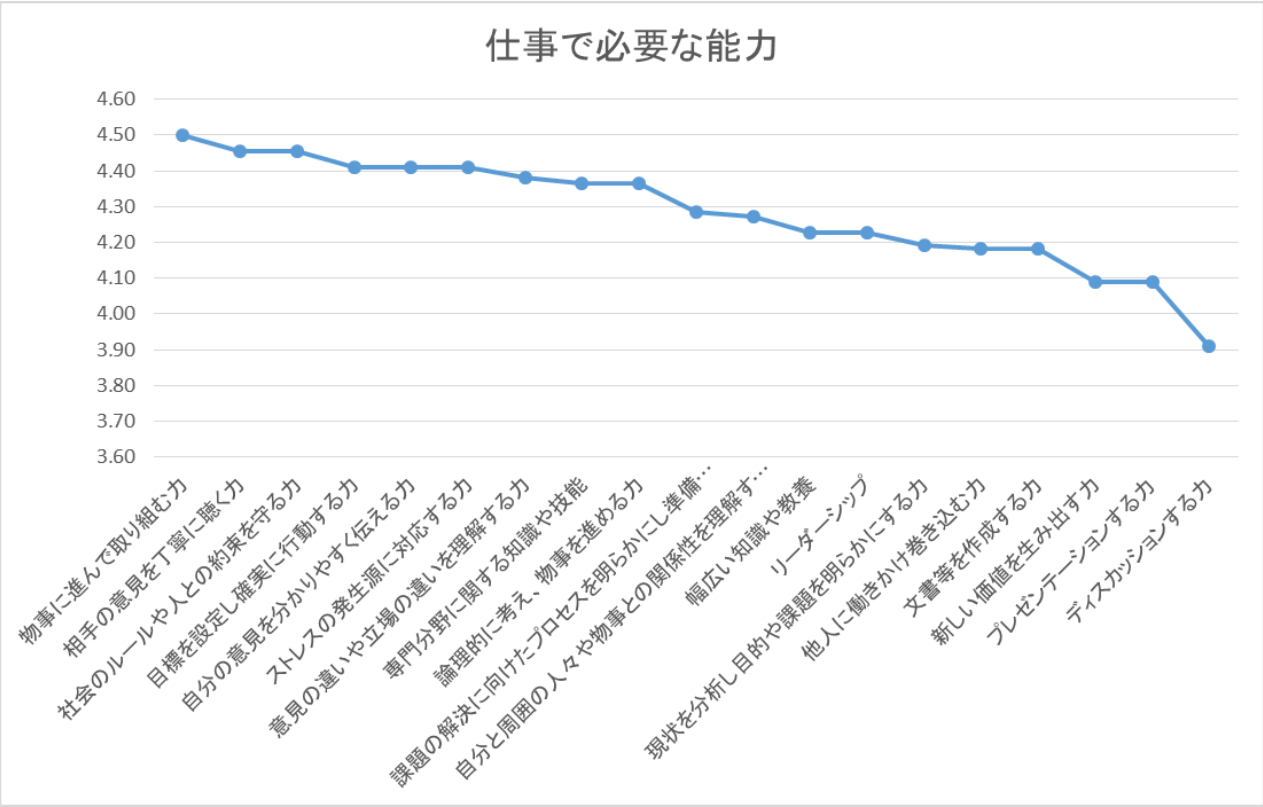

図 11-2. 現在の仕事で必要な能力

表 4　現在の仕事で必要な能力（平均点順）

		平均値	標準偏差
①	物事に進んで取り組む力	4.50	0.96
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.45	0.91
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	4.45	0.91
③	目標を設定し確実に行動する力	4.41	0.96
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	4.41	0.91
⑫	ストレスの発生源に対応する力	4.41	0.96
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.38	0.92
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.36	1.00
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.36	0.95
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.29	1.06
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.27	0.94
⑬	幅広い知識や教養	4.23	1.02
⑲	リーダーシップ	4.23	1.07
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.19	1.03
②	他人に働きかけ巻き込む力	4.18	1.01
⑯	文書等を作成する力	4.18	1.10
⑥	新しい価値を生み出す力	4.09	1.06
⑱	プレゼンテーションする力	4.09	1.11
⑰	ディスカッションする力	3.91	1.23

表 5「大学院教育で身についた能力」と「現在の仕事で必要な能力」の順位差

		身についた能力	仕事で必要な能力	順位差 ※
①	物事に進んで取り組む力	6	1	−5
②	他人に働きかけ巻き込む力	15	15	0
③	目標を設定し確実に行動する力	7	4	−3
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	2	14	12
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	10	10	0
⑥	新しい価値を生み出す力	16	17	1
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	14	5	−9
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	13	2	−11
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4	7	3
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	11	11	0
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	17	3	−14
⑫	ストレスの発生源に対応する力	19	6	−13
⑬	幅広い知識や教養	3	12	9
⑭	専門分野に関する知識や技能	8	8	0
⑮	論理的に考え、物事を進める力	1	9	8
⑯	文書等を作成する力	9	16	7
⑰	ディスカッションする力	12	19	7
⑱	プレゼンテーションする力	5	18	13
⑲	リーダーシップ	18	13	−5

※順位差は、現在の仕事で必要な能力（順位）−大学院教育で身についた能力（順位）

<table>
<tr><td rowspan="3">大学院教育で身についた能力（19 項目平均 4.01）</td><td>身についた（>4.01）</td><td>⑩自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（0.23）
⑬幅広い知識や教養（0.03）
④現状を分析し目的や課題を明らかにする力（-0.05）
⑯文書等を作成する力（0.06）
⑱プレゼンテーションする力（-0.07）
⑰ディスカッションする力（-0.13）</td><td>①物事に進んで取り組む力（0.37）
⑧相手の意見を丁寧に聴く力（0.45）
③目標を設定し確実に行動する力（0.29）
⑨意見の違いや立場の違いを理解する力（0.21）
⑮論理的に考え、物事を進める力（0.08）
⑭専門分野に関する知識や技能（0.24）
⑤課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力（0.21）</td></tr>
<tr><td>身につかなかった（<4.01）</td><td>⑲リーダーシップ（0.63）
②他人に働きかけ巻き込む力（0.22）
⑥新しい価値を生み出す力（0.3）</td><td>⑪社会のルールや人との約束を守る力（0.77）
⑦自分の意見を分かりやすく伝える力（0.45）
⑫ストレスの発生源に対応する力（0.97）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>必要でない（<4.28）</td><td>必要（>4.28）</td></tr>
<tr><td colspan="3">現在の仕事で必要な能力（19 項目平均 4.28）</td></tr>
</table>

※（　）内は、現在の仕事で必要な能力（平均値）−大学院教育で身についた能力（平均値）

大学院教育で身についた能力（5点満点）	4-5点		⑰ディスカッションする力（-0.13）	⑮論理的に考え、物事を進める力（0.08） ④現状を分析し目的や課題を明らかにする力（-0.05） ⑬幅広い知識や教養（0.03） ⑨意見の違いや立場の違いを理解する力（0.21） ⑱プレゼンテーションする力（-0.07） ①物事に進んで取り組む力(0.37) ③目標を設定し確実に行動する力（0.29） ⑭専門分野に関する知識や技能（0.24） ⑯文書等を作成する力（0.06） ⑤課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力（0.21） ⑩自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（0.23） ⑧相手の意見を丁寧に聴く力（0.45）
	3点			⑦自分の意見を分かりやすく伝える力（0.45） ②他人に働きかけ巻き込む力（0.22） ⑥新しい価値を生み出す力（0.3） ⑪社会のルールや人との約束を守る力（0.77） ⑲リーダーシップ（0.63） ⑫ストレスの発生源に対応する力（0.97）
	1-2点			
		1-2点	3点	4-5点
		現在の仕事で必要な能力（5点満点）		

（２）学んだことに満足しているかについて（問 13）

ここでは、総合的にみて、研究科で学んだことについて満足しているかについて見てみると、「満足している」(60.0%)、「ある程度満足している」(40.0%) 合計が 100%であった（図 12 を参照)。前回アンケート調査(平成 28 度修了生対象)では、「満足している」(45.2%)「ある程度満足している」(51.6%)で合計が 96.8%であった。

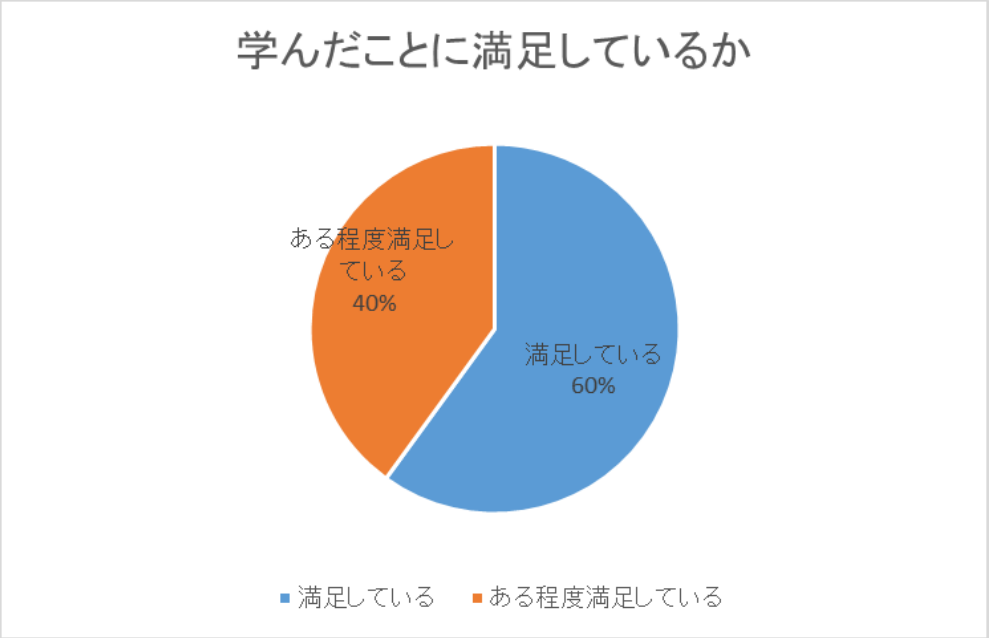

図 12. 学んだことに満足しているか

（３）愛着について（問 14）

研究科に愛着があるかどうかを見てみると、「非常にある」(56.0%)、「ある程度ある」(44.0%)で合計 100%となり、全数が「愛着がある」と回答した（図 13 を参照)。前回アンケート調査(平成 28 度修了生対象)では、「愛着がある」(43.3%)、「ある程度ある」(50.0%) で合計 93.3%であった。

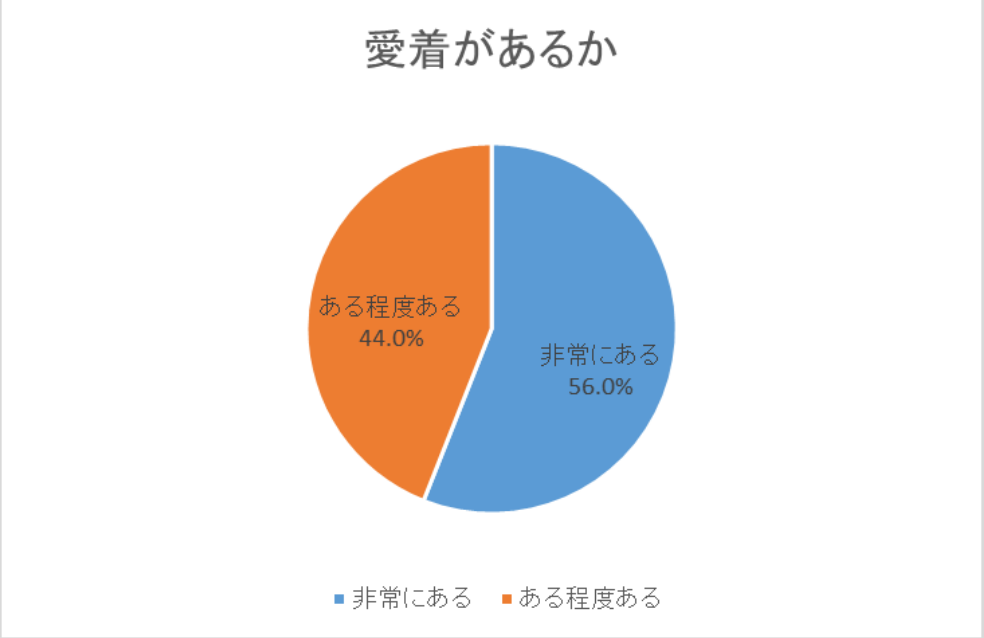

図 13. 愛着があるか

３．現在の状況について

（１）自己研修について（問 16）

能力向上のため、何か自己研修を行っているかを見てみると、行っている人・予定している人（40.0%）と行っていない人（60.0%）となった（図 14 を参照）。

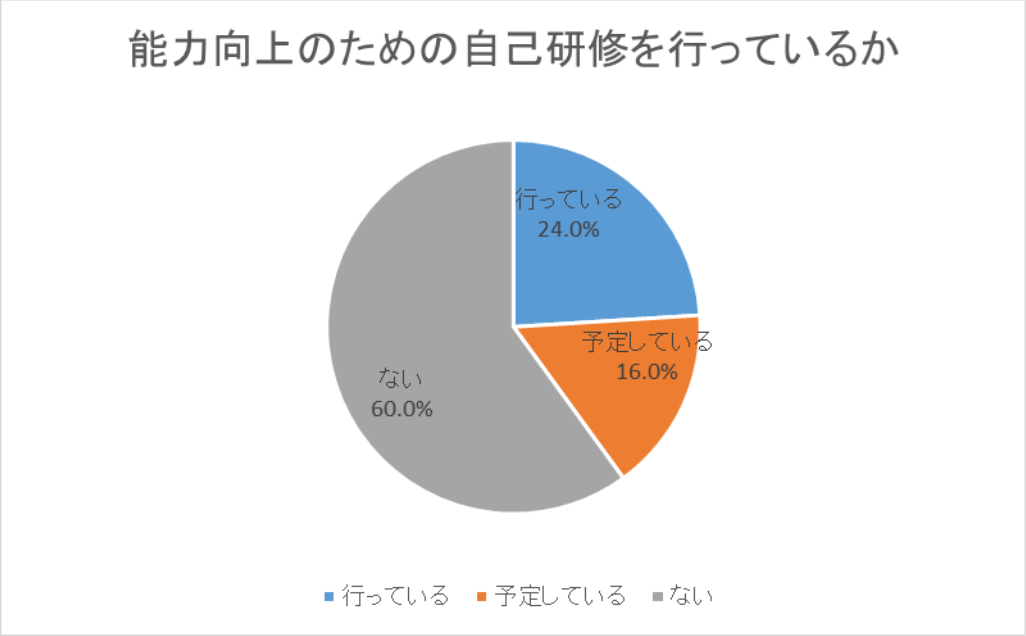

図 14．能力向上のための自己研修を行っているか

具体的内容（問 16 記述）

行っていると回答した人
・プロジェクト研究論文の深掘り ・英語の研修

予定していると回答した人
・資格取得 ・英語 ・中国語講座

（２）地域活動について（問 17）

個人あるいはグループで地域のための活動を行っているかを見てみると、行っている人（32.0%）と行っていない人（68.0%）となった（図 15 を参照）。

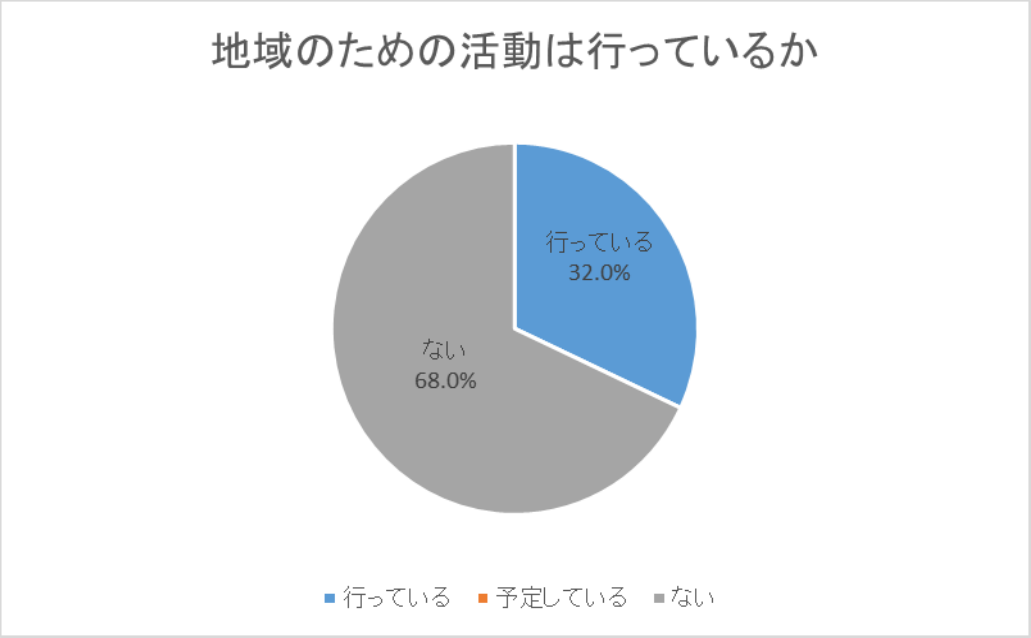

図 15. 地域の為の活動を行っているか

具体的内容（問 17 記述）

行っていると回答した人
・商店街で生け花展 ・まつり参加 ・体協、消防 ・NPO 活動等 ・研究で取り組んだ活動に引続き参加する。

（３）研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて（問 18, 19）

研究科で開催した講演会・シンポジウムなどに参加しようと思うかについて見てみると、「思う」が（96.0%）であった。（図 16 を参照）。

さらに、研究科で開催する講演会・シンポジウムはどのような形がよいと思うかについて見てみると、対象を限定しない「一般公開」が（92.0%）、「在学生・修了生のみ対象」が（8.0%）となった（図 17 を参照）。

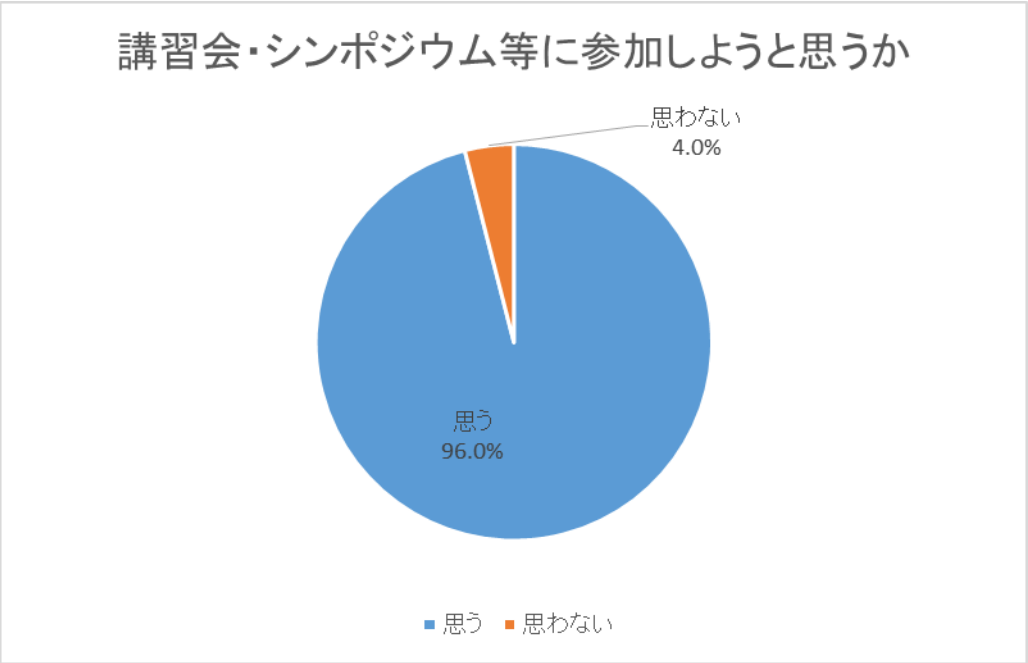

図 16. 講演会・シンポジウムに参加したいか

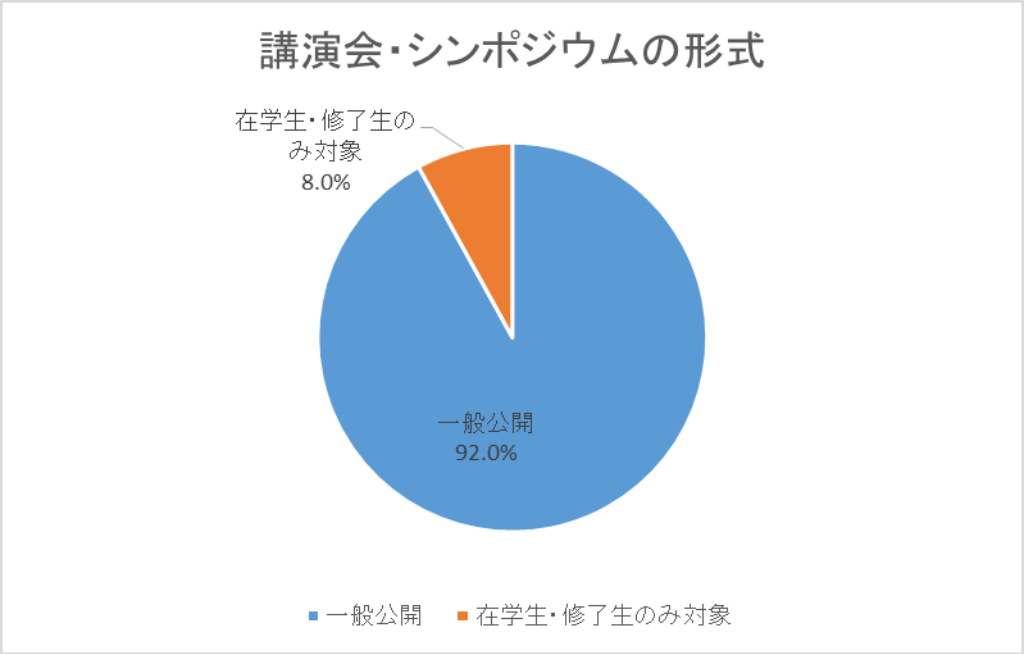

図 17. 講演会・シンポジウムの形式について

（４）後期（10 月）入学の必要性について（問 20）

研究科に、後期（10 月）入学が必要かどうかについて見てみると、「非常に必要」（12.0%）「ある程度必要」（36.0%）、どちらともいえない（32.0%）、あまり必要でない（12.0%）、全く必要でない（8.0%）となった。（図 18 を参照）。

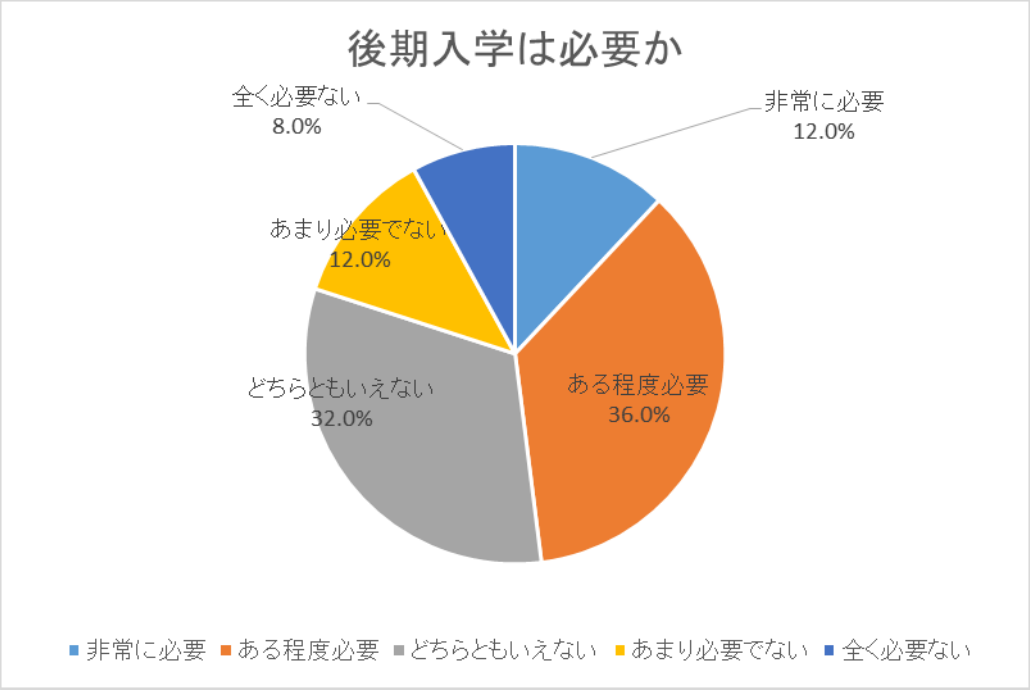

図 18．後期入学の必要性について

３．自由記述のデータ

問 6．プロジェクト研究についてどう思いますか。またその理由はなんですか。

・達成感もあり、調査考察によって考えが深まった。
・実務にて活用できる
・一年の段階から取り組むべきであると考えます
・テーマに関して広く深く学べた
・学生という立場で一つのテーマについて深掘りできた
・じっくりと時間をかけて取り組むことができたから

問 15．地域マネジメント研究科のカリキュラム等について自由に意見を記入してください。

・重複時間の設定はさけてほしい。
・更に幅広いカリキュラム等を入れてほしい
・出席よりレポート課題を重視して量も増やしてはどうか。プロ研について 1 年後期くらいに一度真剣に考える機会を作ってはどうか。
・ある程度自分の所の教員を増やすべきと思います

Ｖ．香川大学、あるいは地域マネジメント研究科がもっと重視したり改善したりした方が良いと思う教育内容や取り組み、要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

・企業経営
・(地マネ OB のつながりの強化として)地マネ OB のゲストスピーカーによる講座(オムニバス)。地マネ OB の集えるラウンジの設置。
・プロ研の期間をもう少し長くする
・他の経営大学院との交流の機会を増やし刺激をうける
・大学内の他学科との協働研究等